

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	がっくおん コヤサンガクエン 学校法人 高野山学園								
フリガナ大学の名称	コヤサンガク 高野山大学 (Koyasan University)								
大学本部の位置	和歌山県伊都郡高野町大字高野山385番地								
大学の目的	高野山大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く教養を培い、密教、仏教、人文及び社会に亘る専門の学芸を総合的且つ有機的に教授研究するとともに、弘法大師の綜芸種智の教育理念に則り、人格を陶冶し、学問・文化の伝承と発展に寄与し社会に貢献する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	教育学科は、建学の精神に基づいて、道徳性と豊かな人間性を兼ね備え、国際的視野を持った実践力のある教員養成を目的とするとともに、地域貢献のできる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	文学部 (Faculty of Literature) 教育学科 (Department of Education)	年	人	年次人	人	学士(教育学) 【Bachelor of Education】	令和3年4月第1年次	大阪府河内長野市小山田町1685番地	河内長野キャンパス
	計	4	50	-	200			大阪府河内長野市楠町西1090番地 和歌山県伊都郡高野町高野山385番地	千代田キャンパス 高野山キャンパス
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	文学部 人間学科(廃止) (△20) ※令和3年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	文学部 教育学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	文学部 教育学科	人	人	人	人	人	-	人
		計	7 (6)	8 (6)	2 (2)	0 (0)	17 (14)	- (-)	38 (20)
	既設分	文学部 密教学科	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	- (-)	50 (50)
計		10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	- (-)	- (-)	
合計		17 (16)	11 (9)	4 (4)	0 (0)	32 (29)	- (-)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		人		人		人		
			25 (22)		3 (3)		28 (25)		
	技術職員		-		-		-		
			(-)		(-)		(-)		
図書館専門職員		3 (3)		-		3 (3)			
その他の職員		1 (1)		1 (1)		2 (2)			
計		29 (26)		4 (4)		33 (30)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大阪千代田短期大 学（必要面積3,000 ㎡）、大阪暁光高 等学校（収容定員 840名、面積基準 8,400㎡）と共用 ・借用面積： 22,981㎡ 借用期 間：令和3年4月1日 から令和23年3月31 日 ・借用面積： 12,648㎡ 借用期 間：平成31年4月1 日から令和6年3月 31日 ・借用面積：4,095 ㎡ 借用期間：期間定 無し		
	校 舎 敷 地	24,018㎡	3,982㎡	1,787㎡	29,787㎡			
	運 動 場 用 地	12,648㎡	4,224㎡	12,881㎡	29,753㎡			
	小 計	36,666㎡	8,206㎡	14,668㎡	59,540㎡			
	そ の 他	5,011㎡	14,775㎡	8,539㎡	28,325㎡			
	合 計	41,677㎡	22,981㎡	23,207㎡	87,865㎡			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大阪千代田短期大 学（必要面積2,850 ㎡）、大阪暁光高 等学校（収容定員 840名、必要面積 5,160㎡）と共用 ・借用面積：8,675 ㎡ 借用期間：令 和3年4月1日から令 和23年3月31日		
		(13,563㎡)	(8,166㎡)	(9,528㎡)	(31,257㎡)			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 うち講義室14室、 演習室2室、実験実 習室4室、情報処理 学習室1室は大阪千 代田短期大学と共 用。実験実習室1室 は大阪暁光高校と 共用		
	34室	10室	8室	2室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			
		文学部 教育学科			16 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用 分 ・図書322,317冊 ・学術雑誌2,125種 ・電子ジャーナル 19種 ・視聴覚資料5,250 点 大阪千代田短期大 学との共用分全体 ・図書79,597冊 ・学術雑誌28種 ・視聴覚資料1,895 点
	文学部 教育学科	37,022 [1,500] (27,022 [1,017])	40 [24] (28 [18])	0 [0] (0 [0])	2,000 (1,895)	20 (0)	50 (0)	
	計	37,022 [1,500] (27,022 [1,017])	40 [24] (28 [18])	0 [0] (0 [0])	2,000 (1,895)	20 (0)	50 (0)	
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体 図書館のうち面積 375㎡・閲覧座席数 59席・収容可能冊 数83,000冊、体育 館のうち面積654㎡ は大阪千代田短期 大学と共用
		2,401㎡	149席		450,000冊			
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				1,640㎡ 第1リズム室 237㎡ 武道場 197㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当り研究費等		240千円	240千円	240千円	240千円				
		共同研究費等		0	0	0	0				
		図書購入費	5,077千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円				
		設備購入費	44,707千円	7,304千円	7,537千円	1,000千円	1,000千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,380千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資産運用収入、寄付金等								
既設大学等の状況	大学の名称		高野山大学								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※令和3年度より学生募集停止(人間学科)
	文学部 密教学科		年	人	年次人	人	学士(文学)	0.75	昭和24年度	和歌山県伊都郡高野町大字高野山385番地	
	文学部 人間学科		4	30	-	120	学士(文学)	0.26	平成27年度	同上	
	文学研究科		4	20	-	80	学士(文学)	0.26	平成27年度	同上	
	密教学専攻(博士前期課程)		2	13	-	26	修士(密教学)	0.30	昭和26年度	同上	
	仏教学専攻(博士前期課程)		2	8	-	16	修士(仏教学)	0.00	昭和26年度	同上	
	密教学専攻(博士後期課程)		3	3	-	9	博士(密教学)	0.34	昭和44年度	同上	
	仏教学専攻(博士後期課程)		3	3	-	9	博士(仏教学)	0.11	昭和44年度	同上	
	密教学専攻(通信教育課程)		2	20	-	40	修士(密教学)	1.37	平成16年度	同上	
附属施設の概要		密教文化研究所									

教育課程等の概要																
(文学部教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	精神学	空海の思想入門	1前	2			○								兼1	
		小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	1前	2				○		1	1					オムニバス・共同(一部)
		基礎ゼミⅡ	1後	2				○			2					オムニバス・共同(一部)
		基礎ゼミⅢ	2前	2				○		1	1					共同
		基礎ゼミⅣ	2後	2				○			2					共同
		小計 (4科目)	—	8	0	0	—			2	6	0	0	0		兼0
	外国語コミュニケーション	English Communication I	1通	2				○		1						兼1
		English Communication II	2通	2				○		1						兼1
		English Communication III	3通		1			○		1						集中
		高野山国際ガイド体験	2通		1			○		1						集中
		中国語	2通		2			○								兼1
		小計 (5科目)	—	4	4	0	—			2	0	0	0	0		兼2
	キャリア	キャリアデザインⅠ	1後	2				○		1						
		キャリアデザインⅡ	2前	2				○		1						
		キャリアデザインⅢ	3後		2			○		1						
			小計 (3科目)	—	4	2	0	—			1	0	0	0	0	
教養科目	ほとけの世界	1前	2				○								兼1	
	日本国憲法	1前	2				○								兼1	
	情報と教育	1後	2					○							兼1	
	体育の理論と実技	1後		2				○		1						
	生涯学習論	3前	2				○		1							
	平和教育	3前	2				○		1							
	人権と社会	3後	2				○			1						
	AIと世界	1後		2			○								兼1	
	世界遺産と観光	1前		2				○							兼1 集中	
	死生観	3後		2				○			1					
	身体技法(ダンス)	1前		1											兼1	
	現代社会と医療	1前		2				○							兼1	
	世界の医療課題	1後		2				○							兼1	
	常用経典	3通		2											兼1 集中	
	声明	3通		2											兼1 集中	
	法式	3通		2											兼1 集中	
	布教	3通		2											兼1 集中	
	小計 (17科目)	—	12	21	0	—			1	3	0	0	0		兼9	
専門科目	理論的科目 教職専門科目	教育原理	1後	2				○								兼2 共同
		教職入門	1後	2				○		1						
		教育と社会	2後	2				○		1						
		教育心理学	2前	2				○								兼1
		特別支援教育	2前	2					○							兼1
		教育課程論	2後		2				○		1					
		保育教育課程論	3前		2				○		1					
		道徳教育の理論と方法	2後		2				○							兼1
		総合的な学習の時間の指導法	3後		2				○			1				
		特別活動の指導法	3前		2				○							兼1
		教育方法論	3前	2					○		1					
		生徒指導論	2後		2				○		1					
		幼児理解方法論	1後		2											兼1
		教育相談	2前	2					○			1				
		進路指導・キャリア教育	2後		2				○							兼1
		教師力養成特講Ⅰ (HRマネジメント)	3前		2				○							兼1
		教師力養成特講Ⅱ (学校理解)	3前		2				○							兼1
		教職とICT	3後		2											兼1
	小計 (18科目)	—	14	22	0	—			3	2	0	0	0		兼9	

教育課程等の概要															
(文学部教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	理論的科目 小学校教諭関係科目	国語科内容論	1前	2		○				1					
		社会科内容論	1後	2		○				1					兼1
		算数科内容論	2後	2		○									
		理科内容論	1前	2		○				1					
		生活科内容論	2後	2		○					1				
		音楽科内容論	1前	2				○				1			
		図画工作科内容論	2前	2				○							兼1
		家庭科内容論	1後	2				○				1			
		体育科内容論	2前	2				○			1				
		初等英語科内容論	1前	2								1			
		国語科指導法	2前	2			○				1				
		社会科指導法	2前	2			○				1				
		算数科指導法	3後	2			○								兼1
		理科指導法	2前	2			○			1					
		生活科指導法	3前	2			○				1				
		音楽科指導法	2前	2					○				1		
		図画工作科指導法	3前	2					○						兼1
		家庭科指導法	2後	2					○			1			
		体育科指導法	3前	2					○			1			
		初等英語科指導法	2後	2				○					1		
		授業実践研究Ⅰ(初等教材開発)	2前	2					○						兼1
授業実践研究Ⅱ(理科実験開発)	2後	2					○		1				集中		
音楽Ⅰ(表現技法)	1後	1										○	兼1		
音楽Ⅱ(表現技法)	2後	1										○	兼1		
小計(24科目)		—	0	46	0			—	1	5	2	0	0	兼4	
幼稚園教諭関係科目	幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	1前	2				○			1				
		幼児と人間関係	1後	2				○							兼1
		幼児と環境	2前	2				○		1					
		幼児と言葉	2前	2				○							兼1
		幼児と表現	2前	2				○				1			
		保育内容の指導法(健康)	3前	2				○			1				
		保育内容の指導法(人間関係)	3前	2				○							兼1
		保育内容の指導法(環境)	3後	2				○			1				
		保育内容の指導法(言葉)	3前	2				○							兼1
		保育内容の指導法(造形表現)	3前	2				○							兼1
		保育内容の指導法(音楽表現)	3後	2				○					1		
小計(11科目)		—	0	22	0			—	1	2	1	0	0	兼3	
保育士関係科目	保育士関係科目	保育原理	2後	2			○								兼1
		子ども家庭福祉	2後	2			○					1			
		社会福祉論	1前	2			○					1			
		子ども家庭支援論	3後	2			○					1			
		社会的養護Ⅰ	3前	2			○					1			
		保育者論	1前	2			○								兼1
		保育の心理学	2後	2			○								兼1
		子ども家庭支援の心理学	2後	2			○								兼1
		子どもの保健	1前	2			○								兼1
		子どもの食と栄養	3後	2					○			1			
		保育内容総論	2前	2					○						兼1
		乳児保育Ⅰ	2前	2				○							兼1
		乳児保育Ⅱ	2後	2					○						兼1
		子どもの健康と安全	2後	2					○			1			
		障害児保育	1後	2					○						兼1
		社会的養護Ⅱ	3前	2					○			1			
		子育て支援	3後	2					○			1			
		表現技術(ピアノ)	2後	2					○				1		
表現技術(造形)	2後	2					○						兼1		
小計(19科目)		—	0	38	0			—	0	3	1	0	0	兼8	

教育課程等の概要															
(文学部教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	理論的科目	発達心理学	2後	2		○									兼1
		カウンセリング論	2後	2		○				1					
		学校臨床心理学	2後	2		○				1					
		心理身体論Ⅰ	3前	2			○			1					
		心理身体論Ⅱ	3後	2			○								兼1
	小計(5科目)	—	0	10	0		—		0	2	0	0	0		兼2
	体験サポート科目	地域体験基礎	1前	2			○				1				
		科学技術と社会	1後		2		○								
		植物栽培の基本	1前		2		○								
		自然と人間	1後		2		○								
		日本文化	1前		2		○								
		文学	1後		2		○				1				
		創作研究	1前		2			○		1					
		茶道	1後		2			○							
書学入門(書道)		1後		2			○								
地域体験特論		2後		2		○			1	1					共同
小計(10科目)	—	2	18	0		—		2	3	0	0	0		兼5	
体験的科目	教育実習Ⅰ(小)	3通		4				○		1					
	教育実習Ⅱ(幼1)	3通		2				○		1					
	教育実習Ⅲ(幼2)	4通		2				○			1				
	保育実習Ⅰ(保育所)	3通		2				○		1					
	保育実習Ⅰ(福祉施設)	3通		2				○		1					
	保育実習Ⅱ	4通		2				○		1					
	保育実習Ⅲ	4通		2				○		1					
	教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	3通		1				○		1					
	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	3通		1				○		1					
	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	4通		1				○			1				
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3通		1				○		1					
	保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	3通		1				○		1					
	保育実習指導Ⅱ	4通		1				○		1					
	保育実習指導Ⅲ	4通		1				○		1					
小計(14科目)	—	0	23	0		—		0	4	1	0	0		兼0	
体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	1通	2					○		1					
	学校・保育現場体験Ⅱ	2通	2					○		2					
	学校・保育現場ボランティア	3通		1				○							
	地域体験Ⅰ	1通	1					○		1					
	地域体験Ⅱ	1通	1					○			1				
	地域体験Ⅲ	2通	1					○			1				
	地域体験Ⅳ	2通	1					○			1				
	地域体験ボランティア	3通		1				○			1				
	海外留学体験	2通		4				○		1					
小計(9科目)	—	8	6	0		—		4	4	0	0	0		兼0	
課題探求科目	教職実践演習(幼・小)	4後		2				○		1					
	保育実践演習	4後		2				○							
	専門基礎演習Ⅰ	3前	2					○		4	8	1			
	専門基礎演習Ⅱ	3後	2					○		4	8	1			
	専門演習Ⅰ	4前	2					○		4	8	1			
	専門演習Ⅱ	4後	2					○		4	8	1			
	卒業研究	4通	8					○		4	8	1			
小計(7科目)	—	16	4	0		—		4	8	1	0	0		兼0	
合計(147科目)		—	70	216	0		—		7	8	2	0	0		兼38

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部教育学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係							
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等							
基礎科目から下記の30単位以上修得 ・建学の精神科目 必修科目2単位 ・基礎ゼミ科目 必修科目8単位 ・外国語コミュニケーション科目 必修科目4単位 ・キャリア科目 必修科目4単位 ・教養科目 必修科目12単位 専門科目から下記の64単位以上修得 ・理論的科目の教職専門科目 必修科目14単位 ・理論的科目の小学校教諭関係科目または幼稚園教諭 関係科目の選択科目68単位のうち、20単位以上 ・理論的科目の体験サポート科目 必修科目2単位を含む6単位以上 ・体験的科目の体験実習科目 必修科目8単位 ・課題探求科目 必修科目16単位 基礎科目、専門科目の上記要件を満たし、さらに選択科目30単位以上、 併せて124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限50単位)							1学年の学期区分				2期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要															
(文学部教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	建学の思想入門	1前	2			○								兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
	基礎ゼミ科目	基礎ゼミⅠ	1前	2				○		1	1				オムニバス・共同(一部)
		基礎ゼミⅡ	1後	2				○			2				オムニバス・共同(一部)
		基礎ゼミⅢ	2前	2				○		1	1				共同
		基礎ゼミⅣ	2後	2				○			2				共同
	小計 (4科目)	—	8	0	0	—			2	6	0	0	0	兼0	
	外国語科目	English CommunicationⅠ	1通	2				○		1					兼1
		English CommunicationⅡ	2通	2				○		1					兼1
		English CommunicationⅢ	3通		1			○		1					集中
		中国語	2通		2			○							兼1
	小計 (4科目)	—	4	3	0	—			2	0	0	0	0	兼2	
	キャリア科目	キャリアデザインⅠ	1後	2				○		1					
		キャリアデザインⅡ	2前	2				○		1					
		キャリアデザインⅢ	3後		2			○		1					
小計 (3科目)		—	4	2	0	—			1	0	0	0	0	兼0	
教養科目	ほとけの世界	1前	2			○								兼1	
	日本国憲法	1前	2			○								兼1	
	情報と教育	1後	2				○							兼1	
	体育の理論と実技	1後		2			○			1					
	生涯学習論	3前	2			○			1						
	平和教育	3前	2			○			1						
	人権と社会	3後	2			○				1					
	AIと世界	1後		2		○								兼1	
	世界遺産と観光	1前	2				○							兼1	
	死生観	3後	2			○				1				集中	
	身体技法(ダンス)	1前		1				○						兼1	
	現代社会と医療	1前		2		○								兼1	
	世界の医療課題	1後		2		○								兼1	
小計 (13科目)	—	12	13	0	—			1	3	0	0	0	兼6		
専門科目	教職専門科目	教育原理	1後	2			○							兼2	
		教職入門	1後	2			○			1				共同	
		教育と社会	2後	2			○			1					
		教育心理学	2前	2			○							兼1	
		特別支援教育	2前	2				○						兼1	
		教育課程論	2後		2		○			1					
		保育教育課程論	3前		2		○			1					
		道徳教育の理論と方法	2後		2		○							兼1	
		総合的な学習の時間の指導法	3後		2		○				1				
		特別活動の指導法	3前		2		○							兼1	
		教育方法論	3前	2			○			1					
		生徒指導論	2後		2		○			1					
		幼児理解方法論	1後		2			○						兼1	
		教育相談	2前	2			○				1				
		進路指導・キャリア教育	2後		2		○							兼1	
		教師力養成特講Ⅰ(HRマネジメント)	3前		2		○							兼1	
		教師力養成特講Ⅱ(学校理解)	3前		2		○							兼1	
		教職とICT	3後		2			○						兼1	
小計 (18科目)	—	14	22	0	—			3	2	0	0	0	兼9		

教育課程等の概要																
(文学部教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	理論的科目 小学校教諭関係科目	国語科内容論	1前	2		○				1						
		社会科内容論	1後	2		○				1					兼1	
		算数科内容論	2後	2		○					1					
		生活科内容論	2後	2		○						1				
		音楽科内容論	1前	2				○					1			
		図画工作科内容論	2前	2				○							兼1	
		家庭科内容論	1後	2				○			1					
		体育科内容論	2前	2				○			1					
		初等英語科内容論	1前	2			○					1				
		国語科指導法	2前	2			○				1					
		社会科指導法	2前	2			○				1					
		算数科指導法	3後	2			○								兼1	
		生活科指導法	3前	2			○				1					
		音楽科指導法	2前	2					○				1			
		図画工作科指導法	3前	2					○						兼1	
		家庭科指導法	2後	2					○		1					
		体育科指導法	3前	2					○		1					
		初等英語科指導法	2後	2			○					1				
		授業実践研究Ⅰ(初等教材開発)	2前	2					○						兼1	
		音楽Ⅰ(表現技法)	1後	1						○					兼1	
		音楽Ⅱ(表現技法)	2後	1										○	兼1	
		小計(24科目)	—	0	40	0	—	—	—	—	0	5	2	0	0	兼4
		幼稚園教諭関係科目	幼児と健康	1前	2			○				1				
			幼児と人間関係	1後	2			○								兼1
幼児と環境	2前		2			○			1					兼1		
幼児と言葉	2前		2			○								兼1		
幼児と表現	2前		2			○					1					
保育内容の指導法(健康)	3前		2			○				1						
保育内容の指導法(人間関係)	3前		2			○								兼1		
保育内容の指導法(環境)	3後		2			○				1						
保育内容の指導法(言葉)	3前		2			○								兼1		
保育内容の指導法(造形表現)	3前		2			○								兼1		
保育内容の指導法(音楽表現)	3後		2			○					1					
小計(11科目)	—	0	22	0	—	—	—	—	0	2	1	0	0	兼3		
保育士関係科目	保育原理	2後	2			○								兼1		
	子ども家庭福祉	2後	2			○				1						
	社会福祉論	1前	2			○				1						
	子ども家庭支援論	3後	2			○				1						
	社会的養護Ⅰ	3前	2			○				1						
	保育者論	1前	2			○								兼1		
	保育の心理学	2後	2			○								兼1		
	子ども家庭支援の心理学	2後	2			○								兼1		
	子どもの保健	1前	2			○								兼1		
	子どもの食と栄養	3後	2					○			1					
	保育内容総論	2前	2					○						兼1		
	乳児保育Ⅰ	2前	2			○								兼1		
	乳児保育Ⅱ	2後	2					○						兼1		
	子どもの健康と安全	2後	2					○		1						
	障害児保育	1後	2					○						兼1		
	社会的養護Ⅱ	3前	2					○		1						
	子育て支援	3後	2					○		1						
	表現技術(ピアノ)	2後	2					○				1				
表現技術(造形)	2後	2					○						兼1			
小計(19科目)	—	0	38	0	—	—	—	—	0	3	1	0	0	兼8		

教育課程等の概要															
(文学部教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	理論的科目	発達心理学	2後	2		○									兼1
		カウンセリング論	2後	2		○				1					
		学校臨床心理学	2後	2		○				1					
		心理身体論Ⅰ	3前	2			○			1					
		心理身体論Ⅱ	3後	2			○								兼1
	小計(5科目)	—	0	10	0		—		0	2	0	0	0	0	兼2
	体験サポート科目	地域体験基礎	1前	2			○				1				
		科学技術と社会	1後	2			○								
		植物栽培の基本	1前	2			○								
		自然と人間	1後	2			○								
		日本文化	1前	2			○								
		文学	1後	2			○			1					
		創作研究	1前	2				○		1					
		茶道	1後	2				○							
書学入門(書道)		1後	2				○								
地域体験特論		2後	2			○			1	1					
小計(10科目)	—	2	18	0		—		2	3	0	0	0	0	兼5	
体験的科目	教育実習Ⅰ(小)	3通		4				○		1					
	教育実習Ⅱ(幼1)	3通		2				○		1					
	教育実習Ⅲ(幼2)	4通		2				○			1				
	保育実習Ⅰ(保育所)	3通		2				○		1					
	保育実習Ⅰ(福祉施設)	3通		2				○		1					
	保育実習Ⅱ	4通		2				○		1					
	保育実習Ⅲ	4通		2				○		1					
	教育実習の研究Ⅰ(小・事前事後指導)	3通		1				○		1					
	教育実習の研究Ⅱ(幼1・事前事後指導)	3通		1				○		1					
	教育実習の研究Ⅲ(幼2・事前事後指導)	4通		1				○			1				
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3通		1				○		1					
	保育実習指導Ⅰ(福祉施設)	3通		1				○		1					
	保育実習指導Ⅱ	4通		1				○		1					
	保育実習指導Ⅲ	4通		1				○		1					
小計(14科目)	—	0	23	0		—		0	4	1	0	0	0	兼0	
体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	1通	2					○		1					
	学校・保育現場体験Ⅱ	2通	2					○		2					
	学校・保育現場ボランティア	3通		1				○							
	地域体験Ⅰ	1通	1					○		1					
	地域体験Ⅱ	1通	1					○			1				
	地域体験Ⅲ	2通	1					○			1				
	地域体験Ⅳ	2通	1					○			1				
	地域体験ボランティア	3通		1				○			1				
	海外留学体験	2通		4				○		1					
小計(9科目)	—	8	6	0		—		4	4	0	0	0	0	兼0	
課題探求科目	教職実践演習(幼・小)	4後		2				○		1					
	保育実践演習	4後		2				○							
	専門基礎演習Ⅰ	3前	2					○		4	8	1			
	専門基礎演習Ⅱ	3後	2					○		4	8	1			
	専門演習Ⅰ	4前	2					○		4	8	1			
	専門演習Ⅱ	4後	2					○		4	8	1			
	卒業研究	4通	8					○		4	8	1			
小計(7科目)	—	16	4	0		—		4	8	1	0	0	0	兼0	
合計(147科目)		—	70	201	0		—		7	8	2	0	0	0	兼35

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部教育学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係							
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等							
基礎科目から下記の30単位以上修得 ・建学の精神科目 必修科目2単位 ・基礎ゼミ科目 必修科目8単位 ・外国語コミュニケーション科目 必修科目4単位 ・キャリア科目 必修科目4単位 ・教養科目 必修科目12単位 専門科目から下記の64単位以上修得 ・理論的科目の教職専門科目 必修科目14単位 ・理論的科目の小学校教諭関係科目または幼稚園教諭関係科目の選択科目68単位のうち、20単位以上 ・理論的科目の体験サポート科目 必修科目2単位を含む6単位以上 ・体験的科目の体験実習科目 必修科目8単位 ・課題探求科目 必修科目16単位 基礎科目、専門科目の上記要件を満たし、さらに選択科目30単位以上、併せて124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限50単位)							1学年の学期区分				2期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要

(文学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	理科内容論	1前		2		○			1						集中
	理科指導法	2前		2		○		1							
	授業実践研究Ⅱ(理科実験開発)	2後		2			○	1							
	小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼0	
合計(3科目)		—	0	6	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼0	
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
基礎科目から下記の30単位以上修得 ・建学の精神科目 必修科目2単位 ・基礎ゼミ科目 必修科目8単位 ・外国語コミュニケーション科目 必修科目4単位 ・キャリア科目 必修科目4単位 ・教養科目 必修科目12単位 専門科目から下記の64単位以上修得 ・理論的科目の教職専門科目 必修科目14単位 ・理論的科目の小学校教諭関係科目または幼稚園教諭関係科目の選択科目68単位のうち、20単位以上 ・理論的科目の体験サポート科目 必修科目2単位を含む6単位以上 ・体験的科目の体験実習科目 必修科目8単位 ・課題探求科目 必修科目16単位 基礎科目、専門科目の上記要件を満たし、さらに選択科目30単位以上、併せて124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限50単位)							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要

(文学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	外国語コミュニケーション 高野山国際ガイド体験	2通		1			○		1						集中	
	小計(1科目)	—	0	1	0	—			1	0	0	0	0	兼0		
	教養科目	常用経典	3通		2			○							兼1	集中
		声明	3通		2			○							兼1	集中
		法式	3通		2			○							兼1	集中
布教		3通		2			○							兼1	集中	
小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼3			
合計(5科目)		—	0	9	0	—			1	0	0	0	0	兼3		
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
基礎科目から下記の30単位以上修得 ・建学の精神科目 必修科目2単位 ・基礎ゼミ科目 必修科目8単位 ・外国語コミュニケーション科目 必修科目4単位 ・キャリア科目 必修科目4単位 ・教養科目 必修科目12単位 専門科目から下記の64単位以上修得 ・理論的科目の教職専門科目 必修科目14単位 ・理論的科目の小学校教諭関係科目または幼稚園教諭関係科目の選択科目68単位のうち、20単位以上 ・理論的科目の体験サポート科目 必修科目2単位を含む6単位以上 ・体験的科目の体験実習科目 必修科目8単位 ・課題探求科目 必修科目16単位 基礎科目、専門科目の上記要件を満たし、さらに選択科目30単位以上、併せて124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限50単位)								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部教育学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 科目	建 目 学 の 精 神	空海の思想入門	弘法大師空海とその密教思想の概要を学ぶ。高野山大学で学ぶ意義を確認し、実り多い勉学生活を過ごすことを可能にするためである。大師の著作のいくつかを具体的に取り上げて概観しながら、空海の生涯や思想について学ぶ。	
	基 礎 ゼ ミ 科 目	基礎ゼミ I	教育学科生として、教育の意義と役割を考える機会となる。大学に入学して多くの研究者と接することになるが、基礎ゼミ I においては、本大学の教員の専門領域について学び、自分が何を学びたいのかを考える機会を得る。授業はコーディネーターの専任教員2名が、オムニバス形式と共同で講義を行い、それをふまえての演習によってスタディスキルを高めることを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (4 山田正行/6回) 学部学科の理解、卒業研究、教育学、社会学関連を担当 (12 青木宏樹/6回) 大学生活の理解、心理、体育、家政学の学びを担当 (4 山田正行・12 青木宏樹/3回)(共同)授業オリエンテーション、講義や演習のうけ方、講義全体のまとめと助言	オムニバス 方式・共同 (一部)
	基礎ゼミ II	基礎ゼミ I で学修したことをふまえ、本授業をとおして教育の意義と役割を再確認し、学生一人一人が何に興味・関心を持つのかを検討する。そのために、人文科学・社会科学・自然科学の各領域の内容を、コーディネーターの二人の教員が解説するので、理解に努めるとともに、自分が何を求めるのかを考えてほしい。 (オムニバス方式/全15回) (9 村尾 聡/4回) 人文科学関連を担当。 (13 松本歩子/4回) 社会科学関連を担当。 (9 村尾 聡・13 松本歩子/7回)(共同) 授業のオリエンテーション、自然科学関連および発表会、授業のまとめを担当。	オムニバス 方式・共同 (一部)	
	基礎ゼミ III	グループワークを含めながら授業を進行する。学生が事前にレジュメや資料を用意し、プレゼンテーションを行い、相互批判をとおして認識を深める。事前の周知な準備と授業への積極的な参加・参画が重要である。	共同	
	基礎ゼミ IV	教育に関わるいくつかのキーワードに基づき、これらの知識やスキルの理解に努め、その学び得た事項をプレゼンテーションできることをめざす。そのためのコミュニケーション・ツールの活用について実践的に学修する。その際、グループ化して少人数で討議する。	共同	
	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目	English Communication I	英語で聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの言語活動を通して実践的コミュニケーション能力を、手段や目的を明確にしたインタラクティブな活動を通して高める。e-learning確認小テストと各課題の基礎文法を解説する。さらに様々な場面を想定して英語で対話形式の演習を行う。またポスターセッションやプレゼンテーションも実施する。	
		English Communication II	English Communication I で学んだ知識や技能を、より高いレベルの英語活用能力に押し上げることを目指す。幼児や児童の教育現場で、英語だけによる指導を可能にする為に、保育英語検定2級取得や、国家公務員採用試験に向けてTOEIC650点獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部教育学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	外国語コミュニケーション	English CommunicationⅢ 宗教、文化、芸術などのトピックを読み、聞く。e-learningによる自宅学習でトピックに対する自分の意見を簡単な英語にまとめ、さらに授業でディスカッションすることを通じて、英語4技能に意見構築力を加えた5技能を育成する。学習したことを基に高野山を紹介するweb資料を作成して、高野山をフィールドに外国人訪問者にプレゼンテーションを行う。	集中
	高野山国際ガイド体験	English Communication 等で学んだ知識や技能を、実際に体験することで深め、より高いレベルの英語活用能力を獲得することを目指す。高野山を訪れる多くの外国人観光客に、ボランティアの観光ガイドとして関わり、観光客への案内やサポートを英語で行う。高野山真言宗国際局や、高野山観光協会のアドバイスを得ながら実施する。	集中
	中国語	地域に根ざし世界を見渡せるグローバル(グローバル+ローカル)な中国語を教える。中国のみならず世界各地に華僑・華人があり、英語に加えて中国語も使えることでグローバルなコミュニケーション能力を高める。そのためにまず同じ漢字文化圏の日本語と中国語の熟語の意味の異同を手がかりに学習の意欲を喚起する。そして文字(大陸の簡体字と台湾や香港の繁体字)、語彙、ピンイン、文法、会話や計算、簡単な時事中国語へと進め、音読と聞き取りのアクティブ・ラーニングにより実践的語学力を習得させ、中級に進むための基礎とする。	
キャリア科目	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインは、自らの人生と労働との関係、働く意味や社会とのかかわりなどを理解し、仕事を通じて自己の能力や個性を發揮し、社会貢献につながる人生をどう築くかを考えることである。自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性やグランドデザインを描くための科目である。キャリアデザインⅠでは、職業観・倫理観、キャリアデザインについて概要を講義し、現代社会における仕事、日本社会の現状について、各ゲストスピーカーを招いて授業を行い、授業担当者はゲストスピーカーを毎年コーディネートし、各授業において授業内容のねらいを学生に伝えコメントを加えることで学生のキャリアデザインを育む。学生はこの授業によって自分の人生を「創る」ことを目指す。	
	キャリアデザインⅡ	キャリアデザインは、自らの人生と労働との関係、働く意味や社会とのかかわりなどを理解し、仕事を通じて自己の能力や個性を發揮し、社会貢献につながる人生をどう築くかを考えることである。本科目では、自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性やグランドデザインを描くための科目である。キャリアデザインⅠを基に、キャリアデザインⅡでは、社会における職業の種類や、労働問題等を理解する。自らの自己分析を行い、人生設計を立てキャリアデザインを考える。	
	キャリアデザインⅢ	キャリアデザインは、自らの人生と労働との関係、働く意味や社会とのかかわりなどを理解し、仕事を通じて自己の能力や個性を發揮し、社会貢献につながる人生をどう築くかを考えることである。本科目では、自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性やグランドデザインを描くための科目である。キャリアデザインⅢでは、就職活動に必要な知識・技能を身につける。採用試験の概要や、マナー講座、教職研究、企業研究、エントリーシートの書き方等を学び、就職活動の準備を進める(一部、ゲストスピーカーとともに授業を担当する)。学生全員がインターンシップに参加し、現場を体験する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部教育学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 科目	教 養 科 目	ほとけの世界	「ほとけ」について分かりやすく紹介し、仏教と人間や社会との関わり、その役割などについて理解することを目的とする。講義の中で、密教瞑想である阿字観にも触れ、体験的に学ぶ。	
		日本国憲法	憲法の全体像を意識しながら、個々の条文の意義について、その歴史的背景(特に日本国憲法の制定過程)や判例などを通して考察する。日本国憲法の三大原則とされる国民主権・平和主義・基本的人権の尊重に焦点を当て、私たちが日常生活のさまざまな場面で憲法と深く関わっていることを見つめ直す。	
		情報と教育	情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。授業では、以下の2点を到達目標とする。(1) 幼児・児童の興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児や児童の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。(2) 幼児や児童の情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。	
		体育の理論と実技	「運動不足」「体力の低下」が問題視され、「運動嫌い」「スポーツが苦手」な子どもが増え、運動を指導するだけではなく、楽しさを伝える指導力が重要である。この体育実技では、体力強化、身体づくりとともに、運動やスポーツの楽しさを体感し、技能面を高めたり、楽しさを味わったりできるような練習やゲームの進め方を考えながら進めていく。	
		生涯学習論	グローバリゼーションにおいてこそ国や郷土の伝統・文化の修得が求められる。アイデンティティが確立してこそ多文化共生社会で自律・自立できる。この観点から生涯学習の過去・現在・未来(歴史・現状・展望・課題)、社会教育と学校教育の連携、生涯発達に即した学習・教育の内容や方法を、アクティブ・ラーニングと組み合わせて講義する。	
		平和教育	グローバリゼーションの絶えざる進展において世界各国・地域の関係がますます緊密になる一方、新たな矛盾も生じている。国境の壁が低くなるに伴いリスクも高まっている。このような現状における平和教育の実践や課題を解説する。いのちの尊さ、他者を大切にすること、異なる文化を理解することへと導く教育実践の方法や内容の基礎を修得するために、様々な教科に関連づけ総合的学習としてカリキュラム化する。	
		人権と社会	グローバル化が急激に進む中、これまでの人権論では想定できない新しい人権問題や積極的に考えて解決に向かっていかなければならない課題が多くあるようになった。その中であって「多様性」を生かしつつ差別を克服してきた歴史や動きを知るとともに、そのことから個々がどのように他者や社会に働きかけるのか、解決に向けての具体的な方法を身に付けられるようにする。また、現代の課題である子どもの貧困、虐待、学校現場でのいじめなどを考察し、それをもとに生きた教材をつくる方法を学べるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部教育学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 科目	教養 科目	AIと世界	インターネットやAI技術の急速な進歩が、社会に大きな影響を与えている。情報が世界をまたいで飛び交い共有化され、AIが様々な分野に進出して、従来とは異なった新たな社会が登場する。こうしたSociety 5.0と名付けられる新しい社会のなかで、人類はどのようにふるまっていけば良いのか、未来社会で人間が活躍しう分野は何だろうか。本科目では、AIについての基礎的な知識を学び、新たな社会における人間の役割などについて検討する。	
		世界遺産と観光	高野・吉野・熊野という“紀伊山地の三霊場と参詣道”がUNESCOの世界文化遺産に登録され16年がたち、高野山には今も世界の人々が訪れ、弘法大師の教えと人々の信仰に接している。旅を楽しむだけでなく、文化と歴史を尊ぶ観光の態度が、UNWTO(国連観光機関)の提唱する持続可能な観光である。この講義では、特に聖地巡礼を通じて信仰と人類の歴史を知る文化観光と教育のあり方を学ぶ。	集中
		死生観	「私たちはどこからきて、どこに行くのか」、「なぜ、私たちは生まれ、死ぬのか」という問いは、人類が抱く大きな問いである。宗教はこの問いに答えようとし、社会はこの問いと向き合うための一定のルール(死の判定や安楽死など)を作り、文化はこの問いを受け入れるための習慣(葬送儀礼やお宮参りなど)を形作る。この講義では、死と生にまつわる人類の思索に触れ、自身の死生観を涵養する。日本文化における死生観についての理解を深めると同時に、自身の死生観を見つめ、培う。	
		身体技法(ダンス)	本授業では身体表現の豊かさの年齢的特徴やリズムカルな動きの発達などの知識を学びます。また、身近な素材を使った表現遊び、身近な動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって表現する遊び、リズム遊び、日本のソーラン節と河内音頭、外国のフォークダンス、ロックやサンバのようなやや早いテンポのリズムダンスを演習します。	
		現代社会と医療	社会人として知っている役立つ現在利用できる日本の医療制度及び保健行政全体についての概説 講義内容は下記の通り 1) 現代の健康問題と社会環境 2) 医療と保健専門職の名称と業務内容 3) 医療と保健施設の種類と行政組織 4) 日本と世界の健康保険制度	
		世界の医療課題	小学校や幼稚園の教師が知っていると有益な保健医療の基本となる主要な健康指標についての概説 また日常生活における主要な健康問題についても概説する。主な講義内容は下記の通り 1) 主要な健康指標 出生率、乳幼児期と学童期の有病率 成人期の有病率 寿命と死因、人口動態と人口静態指標、等の動向と国際比較 2) 感染症と予防対策 3) 食品保健と予防 4) 生活環境と職場・産業保健	

授 業 科 目 の 概 要					
(文学部教育学科)					
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
基礎 科目	教 養 科 目	常用経典	『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行・法要などに用いる諸経典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務める。『真言宗常用諸経要聚』等の経典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、経典が描く仏教・密教的世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこなう。また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』『金胎礼懺』『三陀羅尼』『梵讃』に務める。	集中	
		声明	法要の基本となる「理趣三昧法会」で使われる声明を研鑽する。日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎(楽理を含む)の導入部分から学ぶ。	集中	
		法式	真言宗僧侶としての基礎を修得する。真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識を解説する。また高野山内で年中行事として開催される諸法会についても理解する。	集中	
		布教	布教原理の学習と実習を通して伝道の重要性を認識し、真言法話を語れるようになることを目標とする。本講義は布教初心者の科目である。布教の知識と方法を学び、空海名言に基づいた法話づくりの授業である。	集中	
専 門 科 目	理 論 的 科 目	教 職 専 門 科 目	教育原理	教育の基礎を理解し、現代的課題の本質を見出すことを目的とする。教育の基本的理念及び思想を我が国の歴史と世界の動向を視野に入れて学び身につける。現代社会で起きる教育問題に関心をもち現実に主体的に関わる意欲と教育実践力の基礎を習得する。 【授業の方法】おもに講義形式で授業を進める。受講者数や授業の進み具合に応じて、グループ・ディスカッションも行う。また毎回の授業内では、小レポートの作成・提出を求める。 【準備学習の内容】毎回授業終了時に、授業内容を復習し、そこで扱われたテーマについて、発展的に調べ、自分の言葉で考えること。	共同
			教職入門	講義をとおして現実の教育行政、特に学校教育の現場の様子を知り、教員としての基礎的知識やスキルを習得することをめざす。学校現場では教育課程に基づいた多様な教育活動が求められており、教員としてのあり方や指導については、個人としてだけではなく、チーム学校の一員として対応していかねばならないことを理解する。また、学校が社会から期待されており、それに応える教員の役割があることを実例から学び、学生自ら教員としての意識や意欲を高めるような授業とする。	
			教育と社会	教育と社会の関連性を、教育の社会に対する機能や意義、及び社会の教育への影響や作用を基軸に、学校や教師の役割、現状、課題を講義する。児童生徒が社会の持続可能で公正な開発/発展を進め、超スマート社会(Society 5.0)を担える者となれる学力・体力・徳性・生きる力を身につけさせる授業実践を解説する。「経済再生」と「教育再生」など具体的課題に即してアクティブ・ラーニングを組み入れ、理論や知識を実践力に結実させる。	

(文学部教育学科)			授 業 科 目 の 概 要		
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	理 論 的 科 目	教 職 専 門 科 目	教育心理学	教職に関する科目「教育の基礎理論に関する科目」に相当し、教育の対象を理解するため、教育に関わる心理学的な視点を学ぶとともに、より効果的な教育方法やその結果を評価する方法について学修する。生徒に教育することはもちろん、将来、患者教育や保健指導、臨床指導や看護教育の場面で活用できることをねらい、本授業では発達と教育に関する概念・理論を学び、教育実践の基礎的スキルを習得する。	
			特別支援教育	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性・心身の発達について理解する。障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上及び生活上の困難とその対応方法を理解する。	
			教育課程論	学校教育が、目的や価値の実現をめざした活動であり、到達目標を達成するために、教育内容を組織的、体系的に編成するものが教育課程であることを講義する。講義で得た知見をとおして、学校における教育計画や教育課程の編成の仕方について、学生自身が身につけることができるように、「主体的・対話的で深い学び」の場を設定する。	
			保育教育課程論	保育・教育の実践のVTR記録を用いて、保育・教育課程の役割・機能・意義を深めながら、保育・教育課程編成の基本原則と、各施設の保育実践に即した保育・教育課程の編成の具体的な在り方を理解できるようにする(遊びと生活の年齢別・季節毎の違いを含む)。	
			道徳教育の理論と方法	道徳とは何かという本源的な問題意識を起点に、文明の発展における道徳の役割、個人の道徳性の発達、それを進める道徳教育の理論の基本的な理解を得させ、その理論を授業で実践する方法を、アクティブ・ラーニングを中心に教える。	
			総合的な学習の時間の指導法	本講義では、まず、「総合的な学習の時間」の創設の経緯、設定の趣旨等、基本的な考え方を学ぶ。また、全体計画・年間指導計画の在り方、「主体的で対話的な深い学び」を目指した学習指導方法、教育評価の在り方など、学習活動を具体的に進めるための基本的な事項について、先行研究や実践を分析し考察する。さらに、学習活動の流れや支援の在り方の理解を深める。また、地域との連携の大切さも先行研究資料からつかめるようにする。それらをふまえ、総合的な学習の指導計画を立てられる技能を身に付ける。	
			特別活動の指導法	講義により、学級活動、児童会、学校行事やクラブ活動に関わる内容を理解させ、集団活動の組織や進め方、リーダーシップの育成方法などを学ばせる。現場では教員としての実践的な指導力が求められることから、講義だけでなく、適宜、アクティブ・ラーニングを取り入れることによって、学生が主体的に課題に取り組むだけの力量形成に努める。	
教育方法論	教育方法は、教育目的、目標、内容、評価に関わる実践プロセス全体のひとつの単位である。講義では、教科と教科外を問わず、子どもの指導に関わる具体的なVTR事例等を提示しつつ、歴史的経緯をふまえて、現代に必要な知識やスキルを扱う。また、子どもの成長・発達の観点とも関わらせながら、ICT教材やソフトの活用などを含む授業法等を説明し、実践に役立つ力量の意味を考察したい。				

授業科目の概要			
(文学部教育学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理論的科目 教職専門科目	生徒指導論	今日の学校では、幼児・児童の指導に関わる多様な教育課題があり、教員には適切な指導が求められている。「生徒指導」の本質を理解し、指導原理をふまえた指導技術を習得する。いじめ、不登校、非行などの問題行動や発達障害などに対して、教員として幼児・児童一人ひとりを大切にしたい適切な指導が行えるような知識やスキルを学ぶ。したがって、授業において多面的な観点から生徒指導の在り方や進め方を学習する。	
	幼児理解方法論	乳幼児期の発達課題について習熟を深める。現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解のための相談や支援の概要や方法について学ぶ。乳幼児期の発達は生涯の中で、短期間での劇的な変化を遂げる時期である。乳幼児期の発達課題についての学びを深め、現代の保育と保育を取り巻く問題の中での、乳幼児の理解について考察することを目的とする。	
	教育相談	学校教育相談の主要テーマに関する実践や課題を述べ、質疑や討議や発表を通して、学校教育相談の意義や方法について具体的に考察する。また、子どもの発達上の課題や学校・家庭・社会の中で遭遇する問題を取りあげ、それらへの理解を深めていく。	
	進路指導・キャリア教育	キャリア教育や進路指導の意義や内容、基礎理論について理解し、キャリアに関わる諸要素やコンピテンシーについて講義する。学校内外の関係機関については、どのような機関があるのかを学生が調査し、その連携方策や活用法についてグループ討議することによって知見やスキルを高める。キャリア・進路相談や情報提供については、ロールプレイなどの方法で学生が理解する機会を与える。	
	教師力養成特講Ⅰ (HRマネジメント)	学級経営は、学校教育の最も重要な基礎をなす。いじめや不登校なども学級経営が円滑に進んでいないことと関連する場合が多い。この講義では、学級経営のために必要な、児童生徒への支援、学級集団の維持・向上に求められる知識・技能等について学び、学級担任になることの自覚と理解を深める。	
	教師力養成特講Ⅱ (学校理解)	学校が変われば、教師や子供たちも変わる。「みんなの学校」として成果をあげた大空小学校を例にして、学校や教師のあり方、子どもへの関わり方など、小学校教育を根本から見直す講義。子どもから学ぶ教師の姿と、そうした教師集団の中で育てていく子どもたちの姿を具体的に学ぶことを通して、教師としての力量を高めることを目的とする。	
	教職とICT	学習指導要領において、ICT教育の重要性が指摘され、教育の中での活用が強く望まれるようになった。この講義では、ICTとITとの違いやICT教育の必要性などについて理解し、授業での活用の方法について学ぶ。ICTを利用するための基礎的な学習と、効果的な活用のために知っておくべきことなどを演習しながら学ぶ予定である。	
小学校教諭関係科目	国語科内容論	学習指導要領国語科における目標や内容について学習し、国語科教育についての理解を深める。国語科には「詩、物語、小説などの文学教材」「伝統的な言語文化である俳句、短歌」「説明文(論説文)」「作文教育」「読書指導」などがある。講義は教員自らが文学教材、説明文などを「模擬授業形式(学生参加型)」で講義する。	

(文学部教育学科)			授 業 科 目 の 概 要		
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	理 論 的 科 目	小 学 校 教 諭 関 係 科 目	社会科内容論	社会科教育の内容の理解と時事問題の探究的活動を通して、初等教育に携わる教師としての資質・能力の基礎を養う。本講義では、小学校の社会科の教科書を手掛かりとして、“社会”に関する基礎的な知識を、様々な角度から考察するとともに、社会科の方法原理とその評価についての理解も深められるようにする。本講義を通して、受講者が持続可能な社会の在り方に関心をもてるように展開する。	
			算数科内容論	小学校学習指導要領における算数科の目標、領域、各学年の内容とその系統性を実践的・協働的な学びを通して理解する。小学校算数の4領域（「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」）を理解し、学年での系統性やその必然性、指導上考えるべき点などを指導要領に基づいて理解し、指導の在り方についての見通しを持つことを目指す。	
			理科内容論	小学校理科で学習する内容を理解させると共に、その基礎となる科学的知識について学び、小学校理科の内容的な授業構成ができるように学習する。それに基づいて、学生が主体的に関わって模擬授業を体験し、児童の「主体的・対話的で深い学び」への授業理解を育む。	
			生活科内容論	新学習指導要領における生活科の内容やねらいについて指導要領に則して講義する。生活科の考えやその内容構成の考え方について理解し、具体的な実践ができるようにする。さらに、生活科授業の内容を理解の上、指導案を作成し模擬授業を行う。	
			音楽科内容論	授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の1曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。	
			図画工作科内容論	小学校学習指導要領図画工作編に記述されている教科の目標と内容を正しく理解し、授業における評価と指導の実践力を身につける。子どもの表現について成長の道筋を述べ、発達論的な理解を深めると共に、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞に挑戦することで、図画工作の自由な発想を尊重し、楽しさや達成感を体験する。	
			家庭科内容論	小学校家庭科のねらいの趣旨を生かした授業をするためには、その背景となる専門的な知識や技術が必要である。家庭科の内容を支えている衣服、食物、住居等の各領域について、基礎的な知識を習得し、小学校家庭科の授業構成及び実践ができる能力をつけることを目標とする。	
			体育科内容論	小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。小学校体育科の内容は、運動領域と保健領域から構成されている。本授業では、体育科の目標及び内容について、改訂された学習指導要領に基づき示していく。また、運動領域、保健領域それぞれの内容を系統的に示し、体育授業の学習指導の展開の仕方について考える。	

(文学部教育学科)			授 業 科 目 の 概 要		
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	理 論 的 科 目	小 学 校 教 諭 関 係 科 目	初等英語科内容論	新学習指導要領における外国語活動のねらいや内容について指導要領に則して講義する。英語教育に関する考え方や内容構成の考え方について理解する。この授業では、指導要領における4技能5領域について理解し、それぞれについて参加型の形式で学ぶ。英語を通して言語や異文化への理解を深め、小学校での授業づくりについて学ぶ。	
			国語科指導法	学習指導要領国語科における目標や学力観をふまえた指導法について理解するとともに、指導力の育成をはかる。国語科には「詩、物語、小説などの文学教材の指導」「伝統的な言語文化である俳句、短歌の指導」「説明文(論説文)の指導」「作文教育」「読書指導」などがある。講義の前半は教員自らが文学教材の指導、説明文の指導などについて具体的な授業を示し、後半は、学生自らが学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その中で実践的な指導力の育成につとめる。	
			社会科指導法	本講義では、小学校の社会科における授業において、発問や教材などをどのように考えつくるのかを検討し、さらに、模擬授業を行うことにより、実践的な力量を習得すること目的とする。学習指導案の作成や、模擬授業の準備を丁寧に行うことにより、教材研究の意義について考察する。受講者が、授業時間外に教材作成のための準備や、模擬授業のための準備を行う必要がある。	
			算数科指導法	算数科の目標、指導内容について理解し、授業づくり及び学習評価について学ぶ。発問、板書計画をふまえた学習指導案作成、授業実践を試み、それらを振り返ることを通して実践的指導力を身に付ける。指導案作成に関わって、情報機器等についても活用する。	
			理科指導法	1) 小学校学習指導要領理科の目的・目標・内容の理解の上で、理科の指導法について学ぶ。2) 実際に観察・飼育・実験をすることで、学習指導要領に基づく小学校理科の内容と指導法について理解を深める。3) 小学校理科で扱う内容の理解から、災害や小学校で起こりうる事故を科学的な考えで理解し、災害からの避難方法、事故防止に役立つように実践的に学ぶ。	
			生活科指導法	生活科の特徴について、内容論を踏まえた講義のみならず、まいたんけんや野菜の栽培など実践的な体験を伴う講義を行う。幼児教育から小学校への接続をスムーズにするために、発達段階に応じた幼児や児童の特性の理解など、実践例を示しながら講義を行う。	
			音楽科指導法	①「小学校学習指導要領(音楽)」の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。②音楽科の特性を理解し、子供の実態を視野に入れ、情報機器を活用した内容の音楽科学習指導案を作成する。③模擬授業ではアクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループ学習による多様な題材の授業の実践を行う。グループ単位で学生たちが議論を展開し、共同で指導案を仕上げ、グループの構成員が行った模擬授業を振り返り、自ら発見した課題について互いに協力して主体的に解決する力を養う。さらに授業後の総括・発表・討論を経て、音楽の授業に対する理解を深め、個人レポートを作成する。④クラス音楽会を組織・運営し、学校行事での音楽活動に参加するための基礎的能力を高める。	

(文学部教育学科)			授 業 科 目 の 概 要	
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目 理論的科目 小学校教諭関係科目	図画工作科指導法	図画工作科は、自発的・自主的な表現及び鑑賞の活動を通してつくり出す喜びや価値を手にし、共有することのできる教科である。しかし、技法習得や作品制作に終始し、本来の目標を見落とした指導が行われている場合も少なくない。ここでは、学習指導要領に示された本来の目標や領域の内容を反映した資質・能力をの育成を目指す指導の方法や評価のあり方を互いの模擬授業をもとに交流・検討しながら学修する。併せて、児童の実態に応じた指導と支援を行うための学習指導案の作成・検討を通して、授業実践力を養う。		
	家庭科指導法	家庭科で学ぶ子どもの姿と教師のかかわり方をイメージした上で、小学校家庭科が目指す学習内容や、指導計画、指導法や評価などの基本事項を習得する。これらを活かして児童や地域の実態にあった授業の設計を行い、学習指導案の作成や模擬授業など、具体的・実践的な家庭科指導の在り方について学習する。		
	体育科指導法	小学校体育科の内容の理解を深め、具体的な授業の内容や方法について理解を深める。小学校体育実技種目は、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳運動、ゲーム、ボール運動、表現運動などがあげられる。本授業では、体育科内容論で習得した知識をもとに、各種目の学習指導計画を作成し、技能習得のための理解と実践を行い、教材研究及び授業展開の実際を検証する。		
	初等英語科指導法	英語教育に関する様々な理論を踏まえた講義を行う。講義では小学校低学年の特徴、児童の個々の違いに基づき、教育現場の状況を鑑みながら様々な指導法を考察し、グループ討論などを実施する。		
	授業実践研究Ⅰ (初等教材開発)	小学校の授業とその教材について、(1)典型的な事例の模擬授業の観察と教材分析を行う(2)典型的な授業の授業記録の分析を行う(3)受講者が用意された授業案とその教材を用いた模擬授業を互いに行う(4)受講者が自分たち自身で授業とその教材の試案を作る。その際、英国の教員養成プログラムを参考に、焦点は受講者たちがたえず諸活動の意味を集団として振り返ることにあてられる。教材例は、小学校理科、児童の認知的発達を促進する為の英国授業プログラムに、社会科などの教材例なども含む。	集中	
	授業実践研究Ⅱ (理科実験開発)	実験・観察の目的・方法、および理科実験を授業にどう位置付けるかを解説した上で、理科授業にある実験や観察を実際に体験し基礎的な技能を習得する。その上で、理科実験や観察の教材開発ができる実践力を身に付ける指導を行う。	集中	
	音楽Ⅰ(表現技法)	事前のアンケートにより、音楽Ⅰ(表現技法)は音楽初学者を対象とし、音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎を学ぶ。授業の前半では声楽実技、後半はピアノの実技をおこなう。声楽分野では発声法を基礎から学び、練習曲(パノフカ24の練習曲)や唱歌を用いて楽譜を読んで歌うことに慣れ、また、簡単な二声の合唱曲に取りくむ。ピアノでは各自の能力に合わせて、バーナム・バイエル・ブルグミュラー24の練習曲などの演奏に取り組む。		

授 業 科 目 の 概 要					
(文学部教育学科)					
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	理 論 的 科 目	小 学 校 教 諭 関 係 科 目	音楽Ⅱ(表現技法)	事前のアンケートにより、音楽Ⅱ(表現技法)は音楽経験者を対象とする。音楽理論・声楽・ピアノ演奏の基礎から応用を学ぶ。授業の前半では声楽実技。後半はピアノの実技をおこなう。声楽では発声法の基礎から学び、練習曲(コンコーネ)や唱歌を用いて歌唱技術を向上させ、また、簡単な三声の合唱曲を取り上げる。ピアノでは各自の能力に合わせて、ブルグミュラー・ソナチネなどに取り組み、ピアノ演奏における表現力を培う。	
		幼 稚 園 教 諭 関 係 科 目	幼児と健康	幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。また、幼児の健康に関連したさまざまな事象について学び、保育者として、幼児が健康を獲得するための援助について考える。	
			幼児と人間関係	幼児期の人間関係の意味や発達に関する諸理論を理解する。具体的には、領域「人間関係」の目指すもの、ねらい、内容の扱いについて学ぶ。その際、子どもを取り巻く社会の状況を踏まえて理解できるようにする。次に、年齢段階での子どもの発達状況や、教師・保育者の人との関わりについて学習する。さらに、自立心、共感力、道徳性・規範意識を培うための支援を、事例を使って、具体的に考えていく。最後に、人間関係の育ちを育む環境づくりについて考察できるようにする。	
			幼児と環境	領域(環境)のねらいと内容の理解を深め、保育実践の構成力を身に付けると共に、「環境」を目的にした自然保育への知識理解をすることを目的とする。子どもは、人や社会、自然など様々な環境に取り巻かれて育つ。この授業では、それらについて学び、保育内容(環境)に関する基礎的な理解と、自然環境を保育に活かした実践例を示し、様々な保育方法について学ぶ。	
			幼児と言葉	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストにして、「言葉」に関する教育・保育の内容を理解する。また、言葉の獲得と幼児の発達について絵本、物語をテキストにしながらかえ、豊かな言葉を育てるためにはどのような支援・指導があるのかを考える。	
			幼児と表現	領域「表現」の目的は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ものである。乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける	
			保育内容の指導法(健康)	幼稚園教育要領のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。また、幼児の健康に関連したさまざまな事象について学び、保育者として、幼児が健康を獲得するための援助について考える。	

授業科目の概要				
(文学部教育学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	理論的科目 幼稚園教諭関係科目	保育内容の指導法(人間関係)	「なぜ、人とかがかわることが大切なのか」の問いを自分自身の体験の振り返りを通して自己理解から考え、子どもを取り巻く人的環境を配慮する必要も学んでいく。次に、領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」「内容の取扱い」の構造、人間関係に関わる幼児の発達、教師の指導上の留意点、小学校以降の生活や教科とのつながりについて学習する。さらに、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した指導案の作成、実践(模擬保育)、評価、改善の方法について、ICTの活用も試みながら学習する。	
		保育内容の指導法(環境)	幼児と環境の内容を踏まえた知識に基づき、指導の実践力を身に付ける。幼稚園教育要領「環境」で示している内容を理解し、幼児の発達段階を踏まえた具体的な指導だけではなく、地域の自然・文化の特性を活かした指導ができるように講義を行う。また、情報機器や教材の活用についても実際に使用し、体験的に学ぶ。	
		保育内容の指導法(言葉)	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』におけるねらいを踏まえて、言葉の指導法を学ぶ。絵本や人形劇、紙芝居などについて解説し、自分たちで制作してみる。言葉表現の本質を理解し、幼児における具体的な指導法を理解する。	
		保育内容の指導法(造形表現)	幼稚園教育要領領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方、知識、表現力を学ぶ。幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びとその環境構成を実践的に学ぶ。特に領域「表現」に関わる造形の表現技術を習得する。	
		保育内容の指導法(音楽表現)	領域「表現」の指導に関する、乳幼児の音楽表現の姿やその発達および、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにするさまざまな音楽表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。	
	保育士関係科目	保育原理	保育の意義や方法、理念と概念、歴史に関する基礎知識を身につけることを目的とする。そして、子どもを取り巻く環境の変化とニーズの多様性、課題を知り、保育の社会的役割と責任を学ぶ。到達目標は、保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。保育所保育指針における保育の基本について理解する。保育の思想と歴史の変遷について理解する。保育の現状と課題について理解することである。	
		子ども家庭福祉	子どもの人権・権利擁護の問題や、子ども家庭福祉が歴史的かつ国際的にどのように取り組まれてきたのかを学んだ上で、現代社会における子ども家庭福祉の制度・サービスの現状と実施主体について理解する。さらにこれからの子ども家庭福祉について「どうあるべきか」という視点から検討・展望していく。	
		社会福祉論	社会福祉を支える価値やその歴史的経緯を学んだ上で、現代社会における社会福祉の体系及び制度・サービスの現状と支援の実際について、受講生が直面する生活上の課題を起点に考え、理解する。さらに、子ども家庭支援の充実に向けて、その基礎となる社会福祉が今後「どうあるべきか」について検討・展望していく。	

授 業 科 目 の 概 要					
(文学部教育学科)					
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	理 論 的 科 目	保 育 士 関 係 科 目	子ども家庭支援論	子どもを中心として、家庭（保護者）や地域社会への広がりを意識した上で、保育士が、保育や福祉の専門的な知識や技術を子育て支援の実践にどのように活用していくのかについて考える。また、多様な家庭（及び地域）の状況に対する工夫や配慮についても学ぶ。	
			社会的養護 I	子どもの育ちに関して社会全体が責任を負っていることへの理解を深めた上で、社会的な支えが必要な子どもをとりまく現状や課題、それらに対する制度や支援および担い手について理解する。事例や映像教材なども用い、社会的養護について、受講生が「自らのこととして考える」態度の醸成も目指す。	
			保育者論	保育の目的と保育士養成の変遷について概説し、現代社会における保育職について、その意義、役割、資質、職務について学習する。保育者の役割、保育の専門性について実践例や事例などを通して学ぶ。授業は、ディスカッション、発表等を交え、参加型で行う。	
			保育の心理学	教育心理学とは人の学びについて心理学の視点から考える学問である。乳幼児期は生涯の土台となる経験をする時期で、その経験とは学びそのものである。教育心理学の視点から乳幼児の学びとその適応を支えることについて、また、保育者自身の「教師としての成長」について理解することを目指す。	
			子ども家庭支援の心理学	園などの施設で子どもに関わるうえで、子どもの発達に関する知識と共に、その子どもたちを取り巻く親などの大人についても連続性での理解が求められる。この科目では、生涯にわたる発達について理解し、子どもだけではなく広い視野で大人や社会的背景を含めた子ども理解を目指す。	
			子どもの保健	本講義の目的と内容は、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解することである。	
			子どもの食と栄養	近年、社会環境の変化により、外食・中食の増加や朝食の欠食など食生活の乱れが見られるが、これらが成長と発達の過程にある子どもの健康に及ぼす影響は大きい。この授業では、講義で栄養の基礎を理解し、健康な「食」とは何か、子どもの身体の発達と栄養についてを学ぶ。演習では、調理実習を通して、子どもの摂食機能に応じた食の支援、食物アレルギーへの対応、食育の重要性を学ぶ。	
			保育内容総論	幼稚園教育要領等を総合的に理解し、5領域のねらい、及び内容が相互に繋がっていることを具体的な乳幼児の姿と重ね合わせながら、「遊びを通して育つ」ことを理解する。また、幼児期に育みたい資質、能力についても理解する。	

(文学部教育学科)			授 業 科 目 の 概 要		
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	理 論 的 科 目	保 育 士 関 係 科 目	乳児保育 I	乳児保育の理念と歴史の変遷、現状や課題、乳児保育の計画上の留意点、職員間の連携・協働及び保護者や地域との連携について学ぶ。到達目標として、乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達について学び、その生活と遊びについて理解する。乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解することを旨とする。	
			乳児保育 II	3歳未満児の時期は、自己が形成され、他者との関わりを初めて持つなど心身の発達に重要な時期であり、この時期の保育の在り方は、その後の成長や社会性の獲得、自己肯定感の形成等に大きな影響を与えるものと考えられている。この科目では、乳児保育 Iでの学びを基礎に、乳児・3歳未満児について、「応答性」の重要性や家庭での保育や子育てとの連続性、集団的なふれあいの中での遊びや生活、これらのための適切な環境の在り方など、具体的に学ぶ。	
			子どもの健康と安全	保育所保育指針のねらい及び内容について理解を深め、乳幼児の発育、発達及び健康の基本知識について学ぶ。また、保育者として、乳幼児の健康管理と安全管理ができるように、周辺知識を習得する。到達目標は以下の通りである。① 乳幼児の心身の発達過程を理解する。② 乳幼児の健康観察について理解する。③ 乳幼児の安全管理について理解する。	
			障害児保育	本授業では、障害のある子どもの保育の計画を作成できるようになる。個別支援及び子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について理解することを旨とする。	
			社会的養護 II	社会的養護を実践する際の5W1H（いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ・どのように）について、各項目の多様性もあわせて理解する。特に「どのように」に焦点を当て、個別・集団への支援技術、さらには地域社会を視野に入れた支援技術について、事例検討やワークを実施しながら体験的に修得する。	
			子育て支援	保育の専門性の一端を形成する社会福祉実践の知見を活かし、保護者や、子どもと関わる他専門職者に対する相談や助言、情報提供等の技術を修得する。また、映像教材等を用いて事例検討を行い、①多様化する状況や対象にどう向き合うのか、②どのように課題を理解するのか、③どのように支援を展開するのかについて、個人およびグループで協力しながら考え、実践できる力の修得を目指す。	
			表現技術(ピアノ)	本授業ではコードについて学び、子どもの歌の簡易的な弾き歌いができるように進めていく。保育においては、ピアノが弾けるということだけではなく、子どもの音楽表現を支えることが求められており、子どもの音楽の世界に気づき、受けとめ、共感し、励まし、子どもと一緒に音楽をつくる気持ちが大切である。そのために、ピアノを弾きながら子どもの気持ちや表情に気づくこと、あるいは言葉かけをしたり、歌詞を伝えたり、合図を送るなどができるよう、グループ活動を通して弾き歌いの力を高めていく。なお、グループは、初回の小テストとアンケートによって編成を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部教育学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	理論的科目 保育士関係科目	表現技術(造形)	領域「表現」に関わる造形の表現技術として、造形の基礎的な技法を学ぶ。到達目標として、造形の知識や様々な技法を演習を通して学び、保育に繋がる表現力を身につける。
	心理 学 関 係 科 目	発達心理学	生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を理解する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考察する。人間の発達の観点に基づいて総合的に人を理解でき、各発達段階での適切な援助方法を考えることができるようになる。
		カウンセリング論	カウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を学習し、現実にある日常生活の課題取り上げ、ロールプレイング等を通して解決方法を体験的に学び、理解する。カウンセリング技法についてカウンセリングの基本的な知識と技術を学びし、他者の話に傾聴できるようになる。
		学校臨床心理学	学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深め、学校における心理学的な課題や複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる能力を身に付ける。
		心理身体論Ⅰ	教育現場における様々な心の問題は、思考と身体バランスが崩れ統合できていないことを、臨床心理学、脳科学、神経生理学、身体学等を通じて理解し、教育現場での活用できる基礎的な力をつける。身体と心理・精神は、絶えず相互コミュニケーションを行っている。今日の子どもの心の問題に対して、心身のバランスを取り戻して「心身の統合」が進むことで心の健康が守り育つという、新しいアプローチがあることを学ぶ。
	心理身体論Ⅱ	私たちの心と体は別々に機能しているのではなく、一つのまとまりをもった有機体として活動をしている。強いストレスを受けると、肩や腰に痛みを感じ、心は動揺する。また、人によっては、胃潰瘍などの身体の病になることもある。この講義では動作法や呼吸法などを通じて、心身のつながりについての気づきを深める。心身のつながり、連携の仕方について実際に体験することを通して、自他の心身の状態について気づくための視点を学ぶ。	
体験サポート科目	地域体験基礎	地域体験は、本学のもっとも特徴的な体験学習であり、教職につく者はもちろん、たとえ教職以外の道に進んだとしても、この学習で得るものは大きい。そうした地域体験の意義、そこで習得できる資質・能力などについて、本質的で基本的な視点を学習する。授業は、課題解決型の形式で行い、調査、グループ討論やプレゼンなど、学習者主体の講義となる。	

(文学部教育学科)			授 業 科 目 の 概 要	
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目 理論的科目 体験サポート科目	科学技術と社会	科学技術の急速な発展において、今日ほど科学や技術と人間や社会との関係が問われている時代はない。AIの登場が及ぼす人間世界への影響やそのあり方、エネルギーと環境との関連など、具体的なテーマに沿って、課題学習的に学ぶ。科学技術の歴史的な発展についても触れる中で、今日と未来についても一緒に検討していきたい。		
	植物栽培の基本	地域体験で、植物栽培に関わる体験がたくさん用意されている。この体験を有意義にするため、植物栽培の基本的な知識・技能について講義する。植物の生態、植物と環境との関係、肥料、土、水、空気、温度など生育に大きく関わる要素について解説するとともに、必要に応じて、公園緑化センターでの実技も行う。		
	自然と人間	自然と人間との歴史的経緯・問題点・これからの展望について解説する。理解が深まるよう、グループディスカッションを多く組み入れた講義を行う。日本は、世界有数の豊かな森林資源を持つ国である。木と紙の文化だというほど、木材は日本人の生活に深く根ざしているが、木材を生み出す森林は、世界の自然環境にも大きな役割を果たしている。自然環境や社会にたいして森林が果たす役割について、フィールドワークと関連させて学ぶ。		
	日本文化	日本文化について、テーマを設けて学ぶ。本講義では、仏画について、その意味や教典との関係なども踏まえた講義を行い、仏画を通して仏教や日本文化について理解することを目指す。講義の中では、講師が修復した仏画や教典なども具体的に紹介し、実際に写仏を行い、体験的に学ぶことで理解を深める。		
	文学	文学とは人間の真実やものごとの本質を美的に表現したものである。だからこそ、読者は文学作品から深い思想的な解釈を発見し、自らの認識を広げ、ふかめて行くことが出来る。本科目は、小学校の教科書に掲載されている文学作品、さらに詩、児童文学作品、絵本などを教材として取り上げ、文芸学理論の基礎的理解を図りながら、教職をめざす学生の人間観・世界観を広げ、深めていくことを目的とする。		
	創作研究	認知能力の向上に演劇や絵本は貢献する。その理論を学び、教師となる学生自身の表現力も養う。演劇と教育に関する理論や童話文法を学び、パントマイムや絵本制作を他者と協働する。海外の演劇教育や英語の絵本などを教材として実践的に学ぶ。		
	茶道	日本の伝統的な文化の一つである茶の湯の理解を深めるため、初風炉、開炉、初釜などの茶会を経験し、実際に基本的な所作や点前を習得する。その上で受講生自らが茶会を企画実践し、亭主側と客側とを体験する。これらを通して、茶の湯の精神や美意識について考える。		

授業科目の概要				
(文学部教育学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	理論的科目 体験サポート科目	書学入門(書道)	小学校国語科書写の実技と理論に関して学習する。その基礎・基本となる理論の理解、技能書写力の向上を目指す。さらに発展的に、東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論を含めた実践から焦点を当てる。本講座は基本的に古典臨書を根拠とし、形臨、背臨を経て、学生同士で切磋琢磨し、最後は個々に作品制作を行う。方法としては、国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根拠にした指導を行う。最後に般若心経写経作品を作ることで、その理解度を確認する。	
		地域体験特論	地域で農業・栽培などの体験活動をするための目的・意義をしっかりと理解させたいので、個別の体験活動についての説明を行う。さらに、様々な体験活動を、教育活動につなぐことができるように指導する。地域体験の目的と意義を解説したのち、農業・栽培・森林整備・木工・地域活動・文化活動等について概観する。	共同
体験的科目	教育実習科目	教育実習Ⅰ(小)	小学校にて4週間の教育実習を行う。実習にあたって事前指導を受けておく必要がある。本学では、実習には、必ず教育課題をもって参加しなければならない。どのような教育課題を選ぶかは各自の判断であるが、ゼミ等の指導教員や仲間と議論して適切なものを選ぶことが求められる。また実習途中で、振り返りも求められる。終了後は、事後指導によって、実習の振り返り、発表会などを行う。	
		教育実習Ⅱ(幼1)	幼稚園での2週間の実習を行う。実習にあたっては事前指導を受けておく必要がある。小学校実習と同じく、教育課題をもって実習に参加することが必須である。期間が短いので、途中の振り返りは行わないが、実習終了後の事後指導において、振り返り、発表会などを行う。	
		教育実習Ⅲ(幼2)	幼稚園での2週間の実習であるが、4年次での実施が予定されている。実習Ⅲ(幼Ⅰ)において、2週間の実習を経験した者のみが履修できる。すでに経験済みであるので、園ではより実践的・積極的に実習に参加することが求められる。実習Ⅱと同じく、教育課題をもって実習に参加することが必須である。途中の振り返りは行わないが、実習終了後の事後指導において、振り返り、発表会などを行うことは同様である。	
		保育実習Ⅰ(保育所)	本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、その資質を向上させることを目的としている。保育実習Ⅰ(保育所)では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。	
		保育実習Ⅰ(福祉施設)	本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、保育士として必要な資質を向上させることを目的としている。保育実習Ⅰ(福祉施設)では、福祉施設の活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要					
(文学部教育学科)					
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	体 験 的 科 目	教 育 実 習 科 目	保育実習Ⅱ	本実習は、保育実習Ⅰ（保育所・福祉施設）の内容をふまえた応用実習である。乳児、障害児も対象とした、実習経験の集大成となる責任実習である。実習を通じ、保育士として必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。	
			保育実習Ⅲ	本実習は、保育実習Ⅰ（保育所）の内容をふまえた応用実習である。実習経験の集大成となる指導実習である。実習を通じ、福祉施設職員に必要な資質、技能を習得するだけでなく、家族や地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的としている。	
			教育実習の研究Ⅰ (小・事前事後指導)	教育実習は、大学での教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見を、実際の教育現場で実証する意義ある機会である。授業実践のみならず生徒への影響の重大さを認識し、教育実習に対する基本的な心構えや技能を身に付け、実習後の反省と総括から、今後に向けての展望がもてるようにする。	
			教育実習の研究Ⅱ (幼1・事前事後指導)	小学校における事前事後指導と同様に、幼稚園現場での意義ある機会である。授業実践のみならず幼児への影響の重大さを認識し、教育実習に対する基本的な心構えや技能を身に付け、実習後の反省と総括から、今後に向けての展望がもてるようにする。	
			教育実習の研究Ⅲ (幼2・事前事後指導)	教育実習の研究Ⅱにおける事前事後指導と同様に、幼稚園現場での意義ある機会である。授業実践のみならず幼児への影響の重大さを認識し、教育実習に対する基本的な心構えや技能を身に付け、実習後の反省と総括から、今後に向けての展望がもてるようにする。	
			保育実習指導Ⅰ (保育所)	本授業は、保育実習Ⅰ(保育所)の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。	
			保育実習指導Ⅰ (福祉施設)	本授業は、保育実習Ⅰ(福祉施設)の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。	
			保育実習指導Ⅱ	講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子ども理解と豊かな実践力の応用を養うこと、子どもを取り巻く環境を子育て支援、地域支援の立場から観察し、保育実践を行う。	

授業科目の概要					
(文学部教育学科)					
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門科目	教育的科目	教育実習科目 保育実習指導Ⅲ	講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連付け、子どもや障害者理解と豊かな実践力の応用を養うこと、および学童保育、障害者施設などを利用する利用者を取り巻く環境を理解することを目的としている。保育実習指導Ⅲでは、実施される保育実習Ⅲの実習のための事前・事後指導を行う。児童館や障害者施設での現状を理解し、そこで求められる保育の力量を高めるための講義・演習を行う。		
	体験的科目	体験実習科目	学校・保育現場体験Ⅰ	1年次に学校現場での体験活動に参加し、学校についての理解に努める。こうした実際の教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員としての資質・能力を育成する。体験活動の内容は、授業の見学、学校行事への参加、下校指導、給食や清掃の補助のほか、授業における教員とのチームティーチングによる生徒の学習指導補助や体験活動の目的に即した活動などである。なお、学校との関係が深まるまでは見学や行事の手伝い、下校指導などが中心となるが、経験が深まるにつれて内容が高度になる。	
		学校・保育現場体験Ⅱ	2年次における学校現場体験である。目的や活動内容はⅠと同様に、教育現場を知る機会を豊富に持ち、教職への理解を深め、教員として持つべき資質・能力の育成を目指す。活動の内容は、授業の見学・学校行事への参加・下校指導・給食・清掃の補助・授業における教員とのチームティーチングによる生徒の学習指導補助・その他、この体験の目的に即した活動などであるが、Ⅰよりも各活動に対して主体的に活動する。	共同	
		学校・保育現場ボランティア	学校現場体験Ⅰ・Ⅱを終了した上で、3年次から4年次にボランティアとして関わる学校体験である。教育実習を終了しても参加可能であり、教職に高い関心や意欲をもって関わることで、必要な資質・能力の一層の向上が見込まれる。	共同	
		地域体験Ⅰ	大学と連携した団体での体験的活動を行う。地域体験Ⅰは、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。		
		地域体験Ⅱ	地域体験Ⅰと同じく、連携先の団体で体験的に学ぶ。街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。連携先の方や、支援していただくマイスターの方々と共に作業等を行いながら、知識・技能に加えて、困難に負けない心や協働して完成させる力など、教師として必要な資質・能力を育むことを目的とする。		
		地域体験Ⅲ	2年次における地域体験活動である。連携先および目的は地域体験Ⅰ、Ⅱと同様であり、農業・栽培に関する体験、森林・木工関連の体験、公園整備などのプログラムのいずれかに参加する。学年があがるので、連携先での活動においてリーダー的役割を期待されることになる。自らの体験ばかりでなく後輩に対する指導も必然的に含まれることになる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部教育学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専 門 科 目	体 験 的 科 目	体験実習科目		
		地域体験IV	2年次における地域体験活動である。内容は、街づくり活動に関連する体験、里山保全活動、文化活動体験、馬術場の体験などのプログラムのいずれかに参加する。地域体験Ⅲと同様に、リーダーの役割は一層高まる活動となる。	
		地域体験ボランティア	地域体験ⅠからⅣを踏まえて、3年次から4年次にボランティアとして関わる体験活動となる。体験活動Ⅰ～Ⅳで獲得した知識や技能、資質・能力を一層高めたいと思うものが選択する科目であり、より豊かな活動とできる可能性が高い。	
		海外留学体験	海外留学をし、国際感覚を磨くことは、国際体験を通じた国際理解・知識の拡大、語学力の向上など学生の能力や可能性を広げ、留学を通じ国境を超えた幅広い人的ネットワークの形成につながる。本学の留学では、留学期間中に必ず海外の教育機関(学校現場や教育委員会等)を訪問し、教育事情を視察しレポート提出を義務づけている。国際的な視野やセンスを持った教員として成長することが目的である。	
	課 題 探 求 科 目	教職実践演習(幼・小)	教職課程の最後の履修科目であり、教員としての力量形成を仕上げるのが目標である。したがって、法規上の学校や幼児・児童などの教育活動の状況に対する理解、教員としての使命感や責任等に対する心構えなどについて再確認する。さらに、現場で通用するような授業運営する力量が形成できたかを模擬授業などを通して確認するための演習を行う。	
		保育実践演習	保育者としての使命や責任等について理解し、保育活動を進められる力量形成ができたのかを確認する。授業では、保育や社会のさまざまな事象について興味・関心、問題点を抱いたことについて、調査・研究し、成果の発表を行う。	
		専門基礎演習Ⅰ	卒業研究に繋がる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する理解、特にさまざまな学習理論や方法についての理解を深めることを中心としてすすめる。課題について調査し、発表、討論を常に行うことで、内容の理解を深め、プレゼン能力を高めることも目的とする。	
		専門基礎演習Ⅱ	卒業研究につながる科目である。少人数の演習形式の授業を通して、教育・保育に対する深い理解と、論文を作成するための必要な情報と文献整理・収集などの技能、ICTを利用した発表方法、ディスカッションする力、教育・保育に関する課題を自ら探究する力を身につける。「専門基礎演習Ⅰ」をさらに一歩進めるための授業である。	
		専門演習Ⅰ	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。またレポートの主旨を簡潔に聞き手に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。さらに的確な論題を提起し、それについての自らの意見と他者の意見を交換する能力を身につけ、さらに高いレベルの考察を行うことができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部教育学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	課 題 探 求 科 目	専門演習Ⅱ	卒業論文作成のための、課題設定、文献収集、先行研究の洗い出し、仮説の設定、論理構成など、論文の基本的な要素を意識して、具体的な論述を行うことができる。またレポートの主旨を簡潔に聞き手に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。さらに的確な論題を提起し、それについての自らの意見と他者の意見を交換する能力を身につけ、さらに高いレベルの考察を行うことができる。教育・保育に関する多様な考えを批判的に理解し、自分の見解をもつことができる。
		卒業研究	卒業にあたって、すべての学生が、卒業論文を作成しなければならない。4年次の1年間を通じて、ゼミ担当教員の指導のもとで卒業研究を行い、卒業論文にまとめて提出し、審査を受けなければならない。卒業研究では、テーマ設定から資料調査や実験・観察、論文執筆までの過程すべてが、学問的な視野、考え方などの基礎を養う貴重な時間である。

学校法人高野山学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
高野山大学				高野山大学				
文学部				文学部				
密教学科	30	—	120	密教学科	30	—	120	
人間学科	20	—	80		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和3年4月学生募集停止
				<u>教育学科</u>	<u>50</u>	—	<u>200</u>	学科の設置（認可申請）
<hr/>				<hr/>				
計	<u>50</u>	—	<u>200</u>	計	<u>80</u>	—	<u>320</u>	
高野山大学大学院				高野山大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
密教学専攻（M）	13	—	26	密教学専攻（M）	13	—	26	
密教学専攻（通信M）	20	—	40	密教学専攻（通信M）	20	—	40	
密教学専攻（D）	3	—	9	密教学専攻（D）	3	—	9	
仏教学専攻（M）	8	—	16	仏教学専攻（M）	8	—	16	
仏教学専攻（D）	3	—	9	仏教学専攻（D）	3	—	9	
<hr/>				<hr/>				
計	47	—	100	計	47	—	100	